

平成21年3月

## 八代港大型客船入出港に伴う船舶航行安全対策調査専門委員会

### 1 委員会報告書概要

本委員会では、八代港の既存港湾施設－12m岸壁への8万DWT級貨物船及び10m岸壁への7万GT級客船の受け入れ検討にあたって、入出港については、類似モデル船によるファーストタイムシミュレーションを実施して一連の外力影響を検討するとともに水先人へのヒヤリングを行い安全性を検討、また、接岸速度については、防舷材性能との関係から安全性を検討した。

防舷材についての経年劣化については安全性検討にあたって25%を見込み、係留については、OCIMF（石油会社国際海事協議会）の計算手法で係留力を求め、安全に係留可能な条件を検討した。

結果において、8万DWT級貨物船で6cm/s及び7万GT級客船で5cm/sの接岸速度が安全性の条件となり、できる限りの平行接岸が要求される厳しいものとなった。また、八代港は、熊本県を代表する港湾であり、大型貨物船や客船の受け入れは今後増加することが考えられることから、港湾管理者が主体となって、早期に泊地・水路の利用基準を含め八代港の安全運航管理体制の強化を図るよう提言した。

### 2 調査等概要

- (1) 調査概要
- (2) 基礎資料
- (3) 8万DWT級貨物船の検討結果
- (4) 7万GT級客船の検討結果